平成２７年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 学習意欲を向上させ、個に応じた進路実現を確かなものとする。 ＩＣＴ等を活用し、魅力ある授業の展開に努め、本校の学力スタンダードを構築する。	① 年間を通して教員間で授業を公開し、授業研究を充実させて授業改善を促進する。	教務課 各教科	他の教員の授業を参観した回数が年間７回以上の教員の割合が Ａ　９０％以上である Ｂ　８０％以上である Ｃ　７０％以上である (Ｄ)　７０％未満である	Ｄ ３月末の教職員アンケートで ７回以上　63.2％ ５回以上　89.5％	各種研修の研究授業で参観する機会は多々あったが年間を通して積極的に参観する事は少なかった。次年度は教務課が主体となってＩＣＴを有効活用した授業を紹介するなどして積極的に参観する機会も作っていきたい。ただし、参観回数を増やすことが目的ではなく、あくまで授業改善の取り組みの一環であることから、気軽に「相互にスキルを磨き合おう」という積極的雰囲気作りが大切だと思われる。
	② ＩＣＴ機器を活用した、より効率的で効果的な授業を実践する。	教務課 情報課 各教科	本校の教員はＩＣＴ機器を活用して、わかりやすく興味の湧く授業を実践していると答える生徒の割合が (Ａ)　７０％以上である Ｂ　６０％以上である Ｃ　５０％以上である Ｄ　５０％未満である	Ａ 生徒向けアンケート 1月末　80．2%	学習のさまざまな場面でＩＣＴが用いられ、学習内容のイメージ化、学習成果の共有など活用の種類も多岐にわたり、積極的な取り組みが見られた。学習意欲の喚起、学習の理解においてＩＣＴ活用の効果は大きく生徒もＩＣＴの活用については高く評価している。ただし、教えた学習内容の定着にどの程度効果があるのかはまだまだ未知数であり、今後も継続して研究していかなければならない。
	③ 「言語活動の充実」という共通のテーマで生徒の学力向上につながるより効果的な言語活動を学校全体で行う。	教務課 各教科	言語活動に意識して取り組んでいる教員の割合が (Ａ)　７０％以上である Ｂ　６０％以上である Ｃ　５０％以上である Ｄ　５０％未満である	Ａ 職員アンケート 7月　83% 12月　83%	教科会でも言語活動について積極的な話し合いが行われ、共通理解を図った上での段階的、系統的指導が行われるようになり、生徒の発表の場を設ける授業も増加している。今後は生徒が主体性を持って他と協力して問題を発見解決していく能動的な学習を取り入れた授業改善へとつなげていきたい。
	④ 家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。	教務課 各学年 各教科	課題の提出率が Ａ　９０％以上である Ｂ　８０％以上である (Ｃ)　７０％以上である Ｄ　７０％未満である	Ｃ 生徒向けアンケート 9月末　80．6% 1月末　79．0%	Ｃ評価にとどまったが、毎年確実に提出率は伸びている。また課題の量も格段に増えており、それが家庭学習時間の増加につながっていると思われる。学年によっては毎週末課題内容等について保護者にメール配信を行い、家庭での協力をお願いした。まだまだ真の学習習慣の定着には至ってはいないのが実情であり、今後も課題内容の吟味、確認テストや再テストの実施の方策も検討したい。
	⑤ キャリア教育の充実とともに、個人面談を継続的に行い、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう教育活動を行う。	進路指導課 各学年	本校でのキャリア教育が意義あるものとなっていると答える生徒の割合が Ａ　９０％以上である Ｂ　８５％以上である (Ｃ)　８０％以上である Ｄ　８０％未満である	Ｃ 生徒向けアンケート 9月末　85．9% 1月末　83．0%	三年間の系統的で充実したキャリア教育が実施されているが、生徒にはそれがキャリア教育という実感がないようである。職業人講話、インターンシップ、夏季面接講座等がキャリア教育であることを強調する必要もあろう。また、そのためにも教員側の理解も深める必要がある。現三年生でキャリア教育をしっかり積み上げてきた生徒は納得のいく進路を決定しており、今後も継続して尽力していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	ＩＣＴ機器を利用した授業が日常的に行われており、生徒が興味・関心をもって臨んでいる。大学から有識者を招いての研修会や先進校への視察など、積極的な取り組みを評価する。また、今注目のアクティブラーニングにつながる言語活動についても以前から前向きに取り組んで生徒の活き活きとした学習活動につながっているようだ。それに比べて家庭学習の取り組みがなかなか満足なものとならないことが大きな課題だ。家庭学習と授業の両輪がそろって初めて学力が身につくのであり、今後とも保護者との連携を密にして取り組んでほしい。また、キャリア教育は大変充実した取り組みがされており、あとは意義を十分に周知した上での行事等の実施をお願いしたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	今年度は本校評議委員の星稜大学村井万寿夫先生にお願いして、タブレットの効果的活用法について全職員で研修会を行った。また、県外の先進的な学校を訪問して情報を収集するなど積極的に取り組んだ結果、当初の予想以上に機器の活用率ならびに生徒の評価を得た。今後も更に前向きに活用実践や効果的活用法、そして生徒の学力との関連性を探究する。課題の提出率は徐々にではあるが向上している。教科だけでなく学年団との連携や生徒個々への対応を細やかにすることで一層の向上を図りたい。キャリア教育に関しては３年間の計画的で充実した実践を受け継ぎ、それぞれの取り組みが持つ意義を十分に理解させた上で行っていきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
２ 生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。 広報活動の充実や校種間交流、地域と連携した取り組みを積極的に行う。	① 地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各ｺｰｽ	各種の交流活動が活発であり、広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A ９０％以上である (B) ８０％以上である C ７０％以上である D ７０％未満である	B **12 月末の保護者向けアンケート** **89. 9%**	創立三十周年記念事業を始め数多くの行事をＰＴＡや同窓会、地域の方々のご協力を得て実施することができ、成果が得られた。関係各位のご支援ご協力に深く感謝いたします。また、辰巳祭、アートフェスティバル、アートコラボレーションなどの地域および小中学校との交流も積極的に行い、結びつきを深めることができた。今後も各行事の内容を充実させるとともにこれまで以上に時宜に即した情報発信を行っていきたい。
	② ホームページの更新回数を増やし、地域や小中学校等との交流や学校行事など、本校の特色ある教育活動の様子を積極的に発信する。	総務課 各ｺｰｽ	ホームページを通して学校の交流活動や教育活動に関する情報の発信（更新回数）の年間総数が (A) ５０回以上である B ４０回以上である C ３０回以上である D ３０回未満である	A **更新回数が** **9月末 54回** **3月末 125回**	校内のホームページ担当を明確にするとともに、各行事終了後速やかに更新を行った結果、目標の倍以上の更新が実現できた。その結果、ホームページ閲覧回数も大きく増加し本校の教育活動をより多くの方に知っていただくことができたようだ。今後は各課、各部活動ごとの更新がどれも積極的に行われるよう呼びかけ、学校全体の様子をより詳しく発信できるよう努めていきたい。
	③ 保護者の携帯電話へのメール配信を行い、ＰＴＡとの連携を深め、本校の教育活動の円滑化と活性化を図る。	総務課 各ｺｰｽ	メールを登録している保護者の割合が (A) ９０％以上である B ８０％以上である C ７５％以上である D ７５％未満である	A **メール配信の登録を行っている保護者が** **9月 70. 4%** **1月末 93. 9%**	昨年度末７５．３％、今年度９月末７０．４％だったが、多くの方に登録いただいて目標に達した。メール配信の登録は４月当初より書面や保護者懇談会等を通じて全ての保護者にお願いしている。メール配信の回数を増やすなど、登録したことに対するメリットを多く感じてもらうことで、より多くの登録を今後も目指していく。
	④ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	生徒課 各学年	生徒が近隣地域での各種ボランティア活動に参加する回数が A ２５回以上である (B) ２０回以上である C １５回以上である D １５回未満である	B **生徒会集計で** **9月末 19回** **1月末 24回**	夏休みのサマーボランティアに近隣１０カ所の施設や保育所を訪れたのを初めとして、音楽専攻生による特別養護老人介護施設でのコンサートや美術専攻生による子ども交流センター等での似顔絵イベント、またＪＲＣ部による１０カ所に及ぶ継続したボランティア活動があげられる。年間の継続した取り組みについては１回としてカウントしている。
	⑤ 地域の方々や保護者とともに行う行事の中で生徒一人ひとりが充実感・達成感の得られるよう生徒自らが主体的に企画・運営する。	生徒課 各学年	行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があったと答える生徒の割合が A ９０％以上である (B) ８０％以上である C ７０％以上である D ７０％未満である	B **生徒会集計で** **9月末 83. 1%** **3月末 88. 3%**	昨年度から生徒の役割を細分化し、多くの生徒に声を掛け行事への参加率を高めたことで多くの生徒が達成感を味わうことができた。２学期以降は特に保護者の方々と協力して行う行事もあり、生徒も一層の充実感・達成感を持ったようだ。残す３月のスポーツ大会では生徒が参加者としてだけではなく自ら運営しているという自覚を持って主体的に行えた。この経験を来年度以降も繋げてもらいたい。
	⑥ 家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪などの身だしなみ指導を全職員で行い、地域社会の一員であることを自覚した学校生活を送る。	生徒課 各学年	服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が A ９５％以上である (B) ８５％以上である C ８０％以上である D ８０％未満である	B **１月末の生徒向けアンケート** **94. 1%**	昨年度末９１．４％から２．７％向上した。学年や教員間での指導の温度差もなく、指導が徹底しつつある。頭髪指導は継続した声かけから昨年度よりも対象となる生徒数が減少した。服装容儀については女子のスカートの折り曲げ、男子のポロシャツ下の黒シャツ着用がまだみられるため、現在行っている「制服着こなし月間」等の取り組みを今後も断続的に行うとともに、校外で制服を着崩している生徒への対応を考えていきたい。そのためにも今まで以上に保護者の理解、協力を得られるよう連携を密にしていきたい。
	⑦ 全教職員で協力し、時間の大切さを自覚させ、遅刻の減少を目指すことで規範意識の高揚に努める。	生徒課 各学年	年間の遅刻者の延べ人数が A ４００人以下である B ４５０人以下である C ５００人未満である (D) ５００人以上である	D **１月末集計で、** **１年 ３８５人** **２年 １７０人** **３年 １２３人** **全体 ６７８人**	昨年度の総数である４７９人を大幅に上回る残念な結果となった。１年生の遅刻数が圧倒的に多く、また１０回以上遅刻している生徒１２名のうち８名が１年生でその総数だけでも１４６回に及ぶ。来年度に向けて今年度途中から設けた放課後の遅刻特別指導を年度初めから取り入れることと、朝学習を受けていない生徒の放課後学習を設定することで登校時間の厳守を意識づけるとともに、時間の大切さを自覚させるため学校生活のあらゆる場面で注意を促し、指導を徹底していく。

学校関係者評価委員会の評価	今年度は創立３０周年での各種行事や音楽高校の全国大会など、外部に発信する場面が例年に倍して多かった。そんな中での評価は非常に高かった。来年度以降もあらゆる機会に外部に発信し、素晴らしい辰巳丘高校をアピールしてほしい。ボランティア意識が高いことは地域住民としてありがたい。町会と連携した形で来年度はお願いしたい。約束ごとを守る、特に時間を守ることは基本中の基本であり残念だ。ほんの一部の生徒であろうが、「遅刻は恥ずかしいことだ」という意識を持つように粘り強い指導をお願いしたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	３０周年でのいろいろな経験から自信を持って学校生活を送れる生徒が多くなった。今後は成長した生徒の姿と学校の教育力をホームページを筆頭にさまざまな方策によりアピールしたい。ボランティアの意識は年々向上しているがまだまだ地域に浸透しての取り組みの余地があると思われる。学校周辺の地域も高齢の方も多く、意見を収集してよりニーズに即した内容となるよう連絡を密にしたい。遅刻指導に関しては一部生徒の意識を変革するために今まで以上に個々の生徒に寄り添うとともに、保護者への働きかけも密にして遅刻者数を減少させたい。